

H29 自 己 評 価 表

愛媛県立三島高等学校
学校番号 (2)

教育方針	創造性豊かな思考力・判断力と実践力を身に付け、自他の人権を尊重し、国際的視野に立つ社会的な連帯意識を培うとともに、個性を伸ばし、誠実で剛健な気風を養う。	重点目標	「自ら学び、鍛え、考える力の育成」 1 自主的な学習態度の確立 2 基本的な生活習慣の育成 3 人権尊重意識の高揚 4 部活動・ボランティア活動への積極的な参加
------	--	------	--

領 域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
学 習 指 導	教科指導の充実	実験・実習等体験的な授業も取り入れ、分かるまでの個別指導を100%実施する。	B	授業の理解についての評価がやや低い。放課後や早朝の個別指導も丁寧に行われ、成果が表れている。	予習や復習を定着させる課題作りが必要である。具体的目標の中にアクティブラーニングを取り入れる。
		特に1年生に学習方法や授業への取り組み方の細かな指導を行い、学習態度の基本を徹底する。	A	クラスや学年、教科担任により粘り強く指導されている。週末課題、小テストなど、確実に行った。	課題を自力でせず、答を写すことで満足し、理解できた気になっている生徒が増えているので、勉強の仕方や家庭学習の方法を早めに徹底させる。
	保護者との連携	生徒の学習状況が十分に理解できるような資料等の工夫・改善に努める。	A	成績通知表には十分な情報が記入されている。	初めて本校に通う子どもを持つ親にとっては、分からないことが多くある。教員の当たり前は、保護者の当たり前ではないので、連絡を密にし、情報の共有を図る。
	家庭学習の充実	計画的に家庭学習に取り組めるよう合理的な量と質の課題を講じる。	B	定期の課題への取組はよい。期限内の提出する指導を行った。	予習や復習の課題を工夫する。
家庭学習時間を、普通科180分以上・商業科90分以上となるよう指導する。		C	達成率が普通科41.2%、商業科15.5%であった。	予習や復習の課題を工夫する。	
生 徒 指 導	個別指導の充実	三者面談・個人面談を年間6回以上実施するとともに、日常的な生徒との対話や積極的な声掛けを重視する。	B	小さな変化を見逃さず、保護者面談を実施した。	第1回個人面談を4月中旬までに実施する。
	生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立によって、欠席率を1.5%以内にする。また、5分前登校を励行する。	B	1月になって各学年とも欠席・遅刻が増えた。	担任、副担任が早めに教室に行き、生徒の早めの着席を促す。
		平素の端正な身だしなみを心掛けさせ、身だしなみ指導合格率95%を目指す。	C	休み明けの合格率が低い。日頃から声かけをし、身だしなみを整える指導をした。	何度も不合格になった生徒は特別に指導する必要がある。端正な身だしなみの大切さを教え、継続的に働きかける。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策
生徒指導	保護者との連携	早期の家庭訪問を100%実施し、保護者との共通理解に努める。	B	おおむね、早期に計画的に実施した。	持ち上がった場合でも、原則実施をし共通理解を図る。
	交通安全指導の充実	登校時交通安全指導を年間12回以上、電車バス通学生指導を年間3回実施する。また、交通安全セミナーを年間2回実施する。	C	交通マナーに対するクレームが多く、指導した成果は得られなかった。	難しいが登校時より、下校時の交通指導をした方がよいと思われる。集会などで繰り返し指導する。
進路指導	就職指導の充実	就職希望者の就職決定率を100%にする。	A	12月末までに就職希望者の就職決定率が100%となった。	就職希望生徒には、必ず応募前職場見学をすすめ、企業選定をしっかりと行うよう来年度も引き続き指導をしていく。
		商業科では各種検定において、1年生3級・2年生2級をそれぞれ2種目以上取得させる。3年生は、1級を1種目以上取得させる。	B	1年生は94.9%、2年生は94.6%、3年生は66.7%の達成率であった。	早い時期から目標を定め、実現に向けて努力できる生徒を育成する。
	進学指導の充実	進学希望者の進学決定率を100%にする。	B	年度末にほぼ達成できる見込みである。第一志望校への進学がかなわなかった生徒や浪人をする生徒もいる。	早い時期から目標を定め、実現に向けて努力できる生徒を育成する。
		国公立大学の合格者数70名以上を目指す。	B	現時点での合格者数は55名で、模試等の成績を考えると60名程度になりそうである。	Ⅱ類型BやⅢ類型の生徒のAO入試や推薦入試の合格者数を増やしていく必要がある。
特別活動	部活動の充実	文武両道を旨とし、部活動加入率を80%以上にする。	A	今年度の部活動加入率は、85%で目標を上回り、昨年とほぼ同じ実績であった。	部活動の更なる活性化を図り、特色ある部活動の指導に努める。
		県高校総合文化祭への出場5部以上、県高校総体への出場200名以上を目指す。	B	総文祭に4部、県総体に199名が出場した。	専門的な知識・技術・技能等の向上に努め、成績向上を目指す。
		全国大会出場延べ10部以上を実現する。	A	運動・文化・生産部門で延べ15部が出場した。	専門性を高め、より実践的な指導によるレベルアップを図る。
	ボランティア活動の充実	ボランティア活動に力を入れ、地域社会との交流を積極的に行う。	A	参加希望者が募集を上回る状態で、国体関係では多数の物が献身的に参加した。	地域の様々な人々との交流により、地域から学ぶ、地域に貢献する活動を推進する。